

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立福富小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上については、新学習指導要領（算数科）の研修指定を受け、互いの考えを伝え合う「なるほどタイム」の在り方を探ってきた。今後は、「なるほどタイム」での取組を他教科等の学習にも取り入れていきたい。 児童の実態を把握し、職員間で情報共有を行った上で、児童一人一人の心の成長や学びの定着を支えていきたい。 地域の方々との交流や働き掛けを通して、地域の中で育まれている学校の存在を意識し、各種活動に取り組むことができた。 学校行事等の見直しを行い、削減や縮小を図ってきた。今後は、職員の業務の精選と効率化を図り、業務改善に取り組んでいきたい。
2 学校教育目標	自ら学び、思いやりと元気あふれる子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自ら進んで考え行動する（自ら学ぶ子） ②自他のよさを認め合う（思いやりのある子） ③挨拶の推進・根気強さを育てる（元気のある子）

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内学力向上研修により取組の促進を図る。 ・基礎学力テスト、検定テストを実施し形成的評価を充実させ個別指導に生かす。	A	・マイプランの成果指標を到達できたと自己申告する教師は、90.5%だった。	A	・2月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した教職員は95%、保護者は81%であった。 ・基礎学力テストや検定テストなどを児童の実態に即しながら実施することで、児童の基礎的・基本的な学力の向上につなげることができた。	A	・学力向上に向けて、全職員による共通理解と共通実践ができているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。 ・コロナウイルス感染症対策を行いながらの教育活動は大変だと思うが、先生方の努力に感謝したい。	・学力向上対策コーディネーター(里見) ・研究主任(江頭) ・学びづくり部
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○算数アンケートにおいて「算数の学習はよく分かる・だいたい分かる」と回答した児童80%以上	・自分の考えをもち、伝え合う「なるほどタイム」を通して、自分の考えを深めさせる。	A	・10月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した児童が86.5%だった。	A	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が90%だった。また、「分かりやすい授業の工夫」について肯定的に回答した教職員が95%、保護者は88%だった。	A	・学習内容の定着に向けて分かりやすい授業の実践をしているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。	・学力向上対策コーディネーター(里見) ・研究主任(江頭)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートにおいて「自他のよさがわかる」と回答した児童70%以上。 ○道徳に関するアンケート(年2回実施)において肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・人権集会や道徳に関する振り返りやアンケートの実施 ・学校行事、委員会活動等の中で、よさを認め合うことを意識した取組を行う。	B	・学校生活アンケートにおいて「自分のよさがわかる」と回答した児童は63%、「友達のよさがわかる」と回答した児童は91.7%、自己肯定感を高める指導を継続して実施していく。 ・保護者参観でのふれあい道徳を12月に実施予定。	B	・2月の学校生活アンケートにおいて「友達のよさがわかる」と回答した児童は下学年94%、上学年97%に対して、「自分のよさがわかる」と回答した児童は下学年77%、上学年53%だった。各学年で自己肯定感を高めるような活動がなされているが、なかなか成果として出ていない。 ・12月に計画通り人権集会を行った。 ・人権・同和教育の校内実践交流会を行い、各学年や学級における取組の情報交換を行った。	A	・児童が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を育む教育活動を行っているの問いに対し、肯定的評価が91%であった。 ・厳しくそしてその中でもやさしく育てて、たくましい子どもたちが一人でも多くなるように御指導を御願したい。	・道徳教育推進(馬場) ・人権・同和教育(今泉) ・心づくり部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・年に4回「こころのお天気」アンケートを児童に実施する。 ・児童に関わる情報交換を毎週水曜日に行い、学期1回はグループ協議を行う。	B	・「こころのお天気」アンケート、計画通りに実施中。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100%。 ・児童に関わる情報交換を毎週水曜日、また、学期1回はグループ協議を計画的に行っている。	A	・「こころのお天気」アンケートを計画的に実施し、児童の指導に活用できた。 ・いじめ防止等について組織的に対応できた。 ・児童にかかわる情報交換が計画的に実施できた。	A	・いじめの早期発見、早期対応に取り組んでいる。またその体制づくりをしているの問いに対し、肯定的評価が91%であった。 ・いつも忙しなかた、子どもたちと向き合いながら教育に尽力されている先生方には、地域住民の一人として本当に感謝している。	・生徒指導(中尾) ・教育相談(馬場・中島)
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎キャリアパスポートにおいて自らの夢や目標に対して前向きな考えを記入した児童を80%以上にする。	・キャリアパスポートを活用するとともに、全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け、自分の夢、目標をもつことができるようにする。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行う。 ・キャリア教育を意識した授業実践を1人1回以上行う。	・学期のはじめにあてて書くことで、行動の目標を明確にし、体験活動のふりかえりをする中でよかったことや改善点を確認したりするなど、キャリアパスポートを有効に活用することができた。 ・道徳の授業で、夢を実現させた人物の教材を扱って自分の夢を見つめなおしたり、いろいろな職業について調べたりするなど、各教科や領域でキャリア教育を意識した授業実践している。	B	・1年を通して、キャリアパスポートを利用して、計画的に活動することができた。80%以上の子どもが、前向きな夢をあてを立て、ふりかえりをしていくことで、次の活動に対して意欲をつなげることができた。 ・道徳の授業や学級活動の時間に夢についての教材を扱うことで、6年生の児童の90%以上が自分の夢について前向きな考えをもった。	A	・1年を通して、キャリアパスポートを利用して、計画的に活動することができた。80%以上の子どもが、前向きな夢をあてを立て、ふりかえりをしていくことで、次の活動に対して意欲をつなげることができた。 ・道徳の授業や学級活動の時間に夢についての教材を扱うことで、6年生の児童の90%以上が自分の夢について前向きな考えをもった。	B	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動を行っているの問いに対し、肯定的評価が92%であった。 ・上級生・下級生が一緒になって交流できる行事があればよいと思う。 ・福富の子どもたちにもっと自分に自信をもって過ごせるように励ましてほしいと思う。そうすることで、いろいろな活動に意欲的になるのではないかなと思う。
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化 ○体づくりの推進	○始業前や業間、昼休みの時間外遊びをよくすると回答する児童60%以上を目指す。 ○マラソン大会やがんばるマラソン週間を設定し、体力向上や健康な体づくり意識を向上させる。	・体育委員会で外遊びの奨励や学年グループごとのスポーツイベント等を企画・運営する。 ・マラソンがんばりカードを作成し、目標をもって体づくりに取り組ませる。	B	・外で「よく遊ぶ」(49.4%)「外で遊ぶほうが多い」(20.3%)と答えた子が69.4%で、運動会を機に外で遊ぶ姿がよく見られる。 ・がんばるマラソン週間では、がんばりカードを工夫し、体力向上や健康な体づくりへの意識を高めていきたい。	A	・学校評価アンケート(保護者)の「元気に体づくり」の項目では、そう思う(43%)どちらかというと思う(48%)、合わせて91%の結果が得られた。また、マラソン大会についても好意的に受け止められているようである。体育的行事に限らず、日ごとの時間や昼休みの外遊びが多く見られることが何よりである。	A	・運動習慣の改善や定着化をしているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。	・体育主任(溝上) ・体づくり部
	②望ましい生活習慣の形成 ○あいさつのレベルアップ	○「に・さ・い」の合い言葉のもと、元気な挨拶ができたと回答する児童80%を目指す。 ○日常の挨拶指導を充実させる。	・あいさつレベルアップを意識して実践するよう取組を委員会活動等と連携して行う。 ・家庭や地域にも挨拶の励行を呼びかけ、協力を仰ぐ。	B	・元気な挨拶を「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童は78%で、達成不十分だった。「に・さ・い」の合い言葉が浸透不足で、児童にとって分かりやすい合い言葉を検討する必要がある。	A	・学校評価アンケート(児童用)によると、元気な挨拶ができた児童は、1・2年生は89%、3～6年生は82%であり、成果指標を上回ることができた。保護者用アンケートで、「進んで元気に挨拶」ができているが78%で、「挨拶のレベルアップ」を図る必要がある。 ・「元気に」すんで「礼儀正しく」の3つの合い言葉に明確化したことで、理解に差を生かすことができた。	A	・あいさつの指導を充実させているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。 ・朝の挨拶運動にも感心している。	・生徒指導(中尾)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ・定時退勤日の実施率70%以上を目指す。 ・全職員で業務内容や働き方について振り返る機会を年2回以上設ける。	・定時退勤日を設定し、職員の意識を高める取組をする。 ・学校閉庁日の設定 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、課題の早期解決に努める。	C	・定時退勤日を意識し、実施できている教員が54.6%で、半数程度だった。 ・全職員の時間外勤務の平均は36時間だが、個人差が大きい。 ・夏季休業中に業務改善に関する研修会を行った。	B	・定時退勤日を意識し、実施できている教員が75%で、意識が高まっている。 ・全職員の時間外勤務の平均は36.1時間だった。時間外勤務の上限を守れた教員は80%だった。 ・月に2回の定時退勤日の設定を行い、必ず守るように呼び掛けた。	B	・業務効率化や働き方改革を推進し、時間外勤務時間の削減につなげているの問いに対し、肯定的評価が82%であった。 ・先生方は授業以外に取り組むことがあり、ご苦労だと思う。 ・学校教育における業務の効率化や改善によって、少しでも先生方の負担が減り、子どもたちと向き合う時間ももっと充実することを願う。	・管理職(教頭)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○地域に開かれた学校づくり	○コミュニティ・スクールの実践 ○家庭、地域との連携 ○学校からの情報発信	○小中合同による学校運営協議会を年4回開催し、会議の充実とともに小中合同の取組を通して連携を深める。	・学校運営協議会では、学校経営方針等理解を得て、地域連携団体との体験活動等を計画的に進めていく。 ・児童の学習や生活の様子を伝えるため、毎月学校報を発行し、地域でも閲覧してもらう。 ・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・小中合同学校運営協議会を2回開催(うち1回は書面会議)、連携を進めている。 ・地域人材をゲストティーチャーに迎えたり、体験活動を行ったりするなど、地域と連携した学習活動を行うことができた。 ・学校だよりやホームページによる情報発信を積極的に進めている。	A	・小中合同学校運営協議会を4回開催(うち2回は書面会議)することができた。 ・コロナ感染症対策を行いながら、福富の閉鎖的な地域行事への参加や、大豆の収穫、味噌づくりなど地域人材を活用した学習活動など連携を図りながら進めることができた。 ・学校だよりやホームページによる情報発信を積極的に進めている。	A	・家庭と地域が連携した教育活動や取組を行っているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。 ・地域と連携した学習活動を実施して頂いていると実感している。 ・地域の人々との信頼関係を深めて、行きやすい学校にしてほしいと思う。	・管理職(教頭) ・教務主任(里見)
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員60%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・特別支援に関する専門性が向上した教員約91% ・夏季休業中に、中学校と合同で特別支援に関する(教育相談の内容を含む)研修会を実施	A	・特別支援教育に関する専門性が向上したと答えた教員が90%を超えた。 ・気になる子どもについての情報交換を定期的に開催し、ケース会議も適宜行った。	A	・特別支援教育が地域とのつながりや連携し、努力していると感じる。 ・特別支援教育について教員の専門性や意識を高めるような取組をしているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。	・特別支援教育コーディネーター(石戸)

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関しては、基礎学力テストや検定テストの実施により基礎学力の定着を図ってきた。また、互いの考えを伝え合う「なるほどタイム」の効果的な設定についても研究を深めてきた。今後は、発達段階に応じた「なるほどタイム」の在り方について体系化していきたい。 「心のお天気」アンケート等を通じて児童の実態を把握し、職員間で情報共有を行いながら、組織的にいじめ防止の取組や、児童の心の成長を支えていくことができた。 コロナ禍による制限の中でも、地域人材や教材を活用しながら学習を深めることの価値や意義を、児童及び教職員も強く感じる事ができた。 定時退勤日を設定するなど、時間外勤務を削減する意識化を図ってきた。今後は、さらなる業務の精選と効率化を図り、業務改善に取り組んでいきたい。
----------------	---